科野の国　伊奈評（長野県飯田市）

竜丘の古墳

5世紀半ばから栄えた土地・9基の前方後円墳

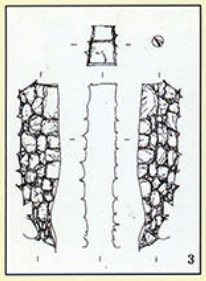
【上川路にある馬背塚古墳】
6世紀末築造とされる伊那谷最後の前方後円墳、2つの横穴式石室を持つ。
巨大な石積から見てヤマト王権の影響が大きい。

5世紀の中ごろ桐林の兼清塚古墳を嚆矢として大塚古墳・丸山古墳・権現堂1号古墳・塚原二子塚古墳が築造され6世紀に至っても金山二子塚古墳・御猿堂古墳・馬背塚古墳・塚越1号古墳と前方後円墳が造り続けられ、それらに付随するように130余基の円墳も造り続けられました。長野県では4世紀から5世紀前半まで古墳文化の中心は北信地域にありましたが、5世紀の半ばに南信の飯田地域に移動しました。中央のヤマト王権の国家統治の変化に連動して、馬と兵の供給が南信地域から行われ、その中核として竜丘が重要な役割を果たしたことが古墳の実態から読み取ることができます。

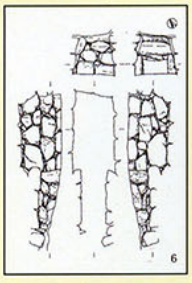
竜丘は8平方キロメートルの狭い地区ですが9基の前方後円墳をはじめ140余基の古墳が知られており、南信州随一の古墳集積地です。

馬背塚古墳の石室

後円部石室（西側）



（上の写真の左側）



前方部石室（東側）

（上の写真の右側）

石室は中に入って見学できます。